

2009年

新春のごあいさつ

日本共産党平塚市議会議員

松本とし子 です



松本とし子のホームページ

<http://www.matsumoto-toshiko.jp>

平塚市寺田縄51-16

電話・Fax 59-4607

今年世の中を「変える」年に!

新年明けましておめでとうございます。

みなさん、このお正月いかがお過ごしでしょうか。農業を営む方や商売をしている方々から「もう、大変な状況だ」という声を聞くことが本当に多く、私は、政治の責任がいかに大きいかを痛感しています。

昨年、投機マネーの暴走は原油や穀物にまで流れ込み、日本の経済、国民生活に大きな打撃を与えました。そして、日本の農業・漁業は他の先進国では考えられないほど衰退し、日本の食料自給率は39%にまで落ち込む中、様々な「規制緩和」によって今までの食の安全が一気に崩れてしまいました。

大企業や財界優遇の政治は、国民への負担をどんどん押し付け、そのうえ医療や福祉は切り捨てられ、世界でも例がないという高齢者の医療を別枠にして差別する事態となりました。

働く労働者は、低賃金・劣悪な条件で働かされ、必要なくな

れば何の保障もなく首切られる、まさに小林多喜二の「蟹工船」の現代版と報じられました。

そして、非正規雇用・派遣労働者の大量解雇ではつきりしたのには、大企業は利潤追求のためなら、住む家もないとわかっているも首を切つて寮から追い出す、血も涙もない「人間使い捨て」の実態です。

「アメリカ言いなりの政治」にストップを!

こうした「アメリカ型の政治」
|| 小泉政権以来推し進めてきた「新自由主義」という政治をやつたら国が滅びるといふことを中南米ではすでに痛いほど経験し、アメリカの支配はもちろん、どの国の支配も受けない社会主義への道を進んでいます。

こうした国々はアジア・アフリカ・中南米と国連加盟国の3分の2近くにまでなっています。

日本経済界の重鎮、経済同友会終身幹事である品川正治さんも昨

年、日本共産党の志位委員長との新春対談で「資本主義のシステムも行き着くところまできている。『新しい社会主義』ということを考えざるをえない。しかも、日本共産党が言っているようにソ連型でないものを。」と、資本主義の行き詰まりと、新しい社会主義の道を示唆しています。この行き詰った日本の政治を変えるには、アメリカ言いなりの自民党政権を止めさせることが何より重要です。

みなさん、今年行なわれる衆議院選挙で日本共産党を大きく躍進させ、国民が大切にされる社会、安心して生活できる当たり前の政治に切り替える第一歩にしていこうではありませんか。

松本とし子は、今年も「困難あるところに日本共産党あり」の精神をもって、働いてまいります。本年も何とぞよろしくお願いいたします。

無料法律相談

議員団では、毎月第2土曜日午後1時から弁護士による無料法律相談を行なっています。

ご予約は「松本とし子」までお願いいたします。

市の公共事業目白押し 財政大丈夫？

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
市庁舎建設 100億円			→					
市民病院建て替え2棟 107億円				→				
次期環境事業センター建設 120億円			→					
西部福祉会館建設 11.2億円	→							
北口バリアフリー化整備事業 3.6億円		→						
中原公民館建設 4.7億円	→							
万田貝塚住宅建替整備事業 10.7億円	→							

市庁舎・病院・ごみ焼却場建設費用には、解体工事の予算は含まれていません。そのため、さらに経費が膨らむことが予想されます。市の財産を有効に活用し、まだ使える施設は延命化していくことが必要と考えます。

小児医療費助成が拡充！

小学3年生まで無料、所得制限は小学校入学前までなし！

来年（H21年）4月から、小児医療費の助成対象がひろがり、小学校3年生まで無料、所得制限は小学校就学前まで廃止となりました。

「小学校に上がっても、医療費の助成をしてほしい！」
「わずかな所得の違いで無料と有料。どうか、所得制限をなくして！」これは、保育園・幼稚園をはじめとした子育て中の保護者にとって長い間の要望でした。

12月議会に出された市長提案は、こうした世論に押され、今回ようやく可決されました。

共産党市議団は、「中学生まで医療費は無料に！」を目標に取り組んでいます。



「障がいの種類にかかわらず、医療費の助成を」の願いに平塚市が前進！

長い間精神障がい者や市民団体からの要望であった「精神障がい者にも医療費の助成を」の願いがようやく実りました。H21年1月から精神障がい者保健福祉手帳の1級の人を対象に助成する予算が可決したのです。障害者自立支援法では、「身体、知的、精神の3障がいを一元化すること」を謳いながら、一向に改善されません。

こうした中で、平塚市は国・県に先駆けて医療費助成をおこなうこととなったのです。

県内では6番目の実施となります。平塚市が、この一歩を踏み出したことは障がい者の方々にとって大きな成果であり、運動の賜物です。

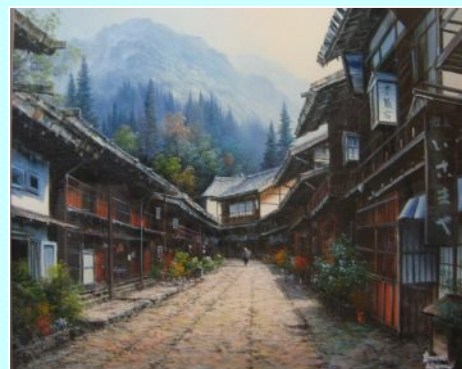
プロフィール

新潟県松之山町（現・十日町市）で生まれる。56歳。保育園・特別養護老人ホーム・障がい者施設進和学園で働く。管理栄養士、介護支援専門員資格。

趣味

書道、写真、絵画鑑賞、料理、野菜や花づくりなど。

数年前に、人見友紀という画家の「妻籠宿」の絵に出会い、心惹かれました。（下の絵）



料理同好会もやっています。



恒例の花・野菜づくり。レモンも収穫。



七夕まつりで踊りました。



ネコが三匹。毎日癒されています。